

名誉員 鶴見一之博士を悼む

草 間 偉*

私の一高時代よりの親友鶴見博士は昨春頃より多少身体不自由であつたが元気はよく折々夫人附添にて上京復興技術協会やその他で活躍されて居つた。それが此夏邸内にて朝表門を開かんとして下駄ばきの靴下が滑べり叩きの上に強く脇をつき肩を脱臼、その後元氣衰え去 10月1日平常の如く朝庭掃除せんと床上に仕度して居る際に発作を起しその場に倒れ意識不明となり、手篤き介抱したの効なく遂に 12 日午後 5 時逝去された。誠に哀惜の極である。この 7 月 1 日神田の学士会館にて明治 39 年卒業の例年の同級会を鶴見夫妻の申出でにより始めて老夫婦揃いで開き特に鶴見夫人が写真をよくし、会場並びに屋上の 3 枚のカラー写真が永久の記念になつたとは実に感慨の深いものがある。鶴見君は東大卒業後直に仙台高等工業学校に赴任、明治 41 年教授に、43 年留学、大正 2 年帰朝、昭和 9 年校長となり 19 年仙台工業専門学校と改称、20 年末辞任。名誉教授となり其後宮城県庁土木部顧問として日々登庁研究を続けられ、其他長岡市、仙台市等の上下水道顧問となつた。特に君の永年育英に尽力された仙台工専は戦後大学に昇格、之が現東北大学工学部土木工学科其他の前身にて君は実にその産みの親と言つても過言でない。君は又学者として研學心旺盛の勉強家で仙台に赴任されるや直に初学者の為に土木施工法を編纂し略其原稿を完了せる際に欧米に留学を命ぜられ出発に臨み私にそれを通読、字句を修正し事実を取捨し校正や出版を委託された。之が君と私との共著なる土木施工法にて丸善より明治 45 年出版された。帰朝後君は下水道の著者を出して居る。君は又水文学特に衛生工学方面に興味を持ち降雨と流出量との関係、粒子の沈降速度、水の清浄法とか濾過の理論等に関し汎く文献

をあさり研究実験を行い幾多の成果を収め學術の進歩の上に効績は極めて顕著である。晩年又本邦環境衛生方面が遠く先進国に立遅れて居ることを憂え且つ旧著下水道が既に古くなり戦後斯学の著しき発達と本邦斯界の興隆に伴い、多少の訂正増補位にては到底間に合わざるを悟り全然稿を改め 500 頁に垂とする下水道を編集し自費を以て本年 1 月水道協会より出版し本邦下水道界に最新の良参考書を提供された。齡老寿に達して此の元氣と勉強心から頭の下る思いがした。一方上水道方面にては従来建設を主とした参考書は多いが浄水、水質、衛生等、水道の維持管理を主目的としたものは比較的少いので君は従来此方面の講義及研究を上梓しこの欠を補わんと熱望されて居つた。たまたま昨昭和 33 年君の教え子が組織して居る仙台友工会が主となり恩師の喜寿記念祝賀事業として出版委員会を作り君の多年にわたり飲料水の清浄方法について内外の文献により調査されたものと君の実験に基づく理論等を委員諸氏が献身的努力を以て取り纏め君の校閲を経てその素志通りに本年 5 月末日新版「水の清浄法」が刊行された。誠に土木出身の水道技術者を水質方面に啓蒙する手頃の良書であり又真の師弟愛の結晶である。而して此の両著書が年を同じうして辛じて君の生前に完成したことは本当に喜ばしい限りである。君は又資性温厚篤実にして友情に厚く同級有泉君が早逝され其遺児を特に親切に世話され、遺族も今猶其恩に感激して居る美談が有る。君の遺骨は 37 日の今日 (11 月 1 日) あたり君の祖先の長岡市の墓地に埋葬されるとのこと。この人徳高き勉強家の約 60 年に垂とする親友鶴見君今や無し。嗚呼、聊か有りし日を偲みつつ書き連ねて私の哀悼の辞とし心から君の冥福を祈る次第である。

(原文のまま掲載)

【昭和 34 年 11 月 1 日・記】

* 名誉員 工博 東京大学名誉教授、元土木学会会長

論文集 61 号・別冊 (3-1)

B 5 判 54 ページ 発電用河川流量の研究

論文集 61 号・別冊 (3-2)

B 5 判 21 ページ サージタンクの相似律 (英文)

論文集 61 号・別冊 (3-3)

B 5 判 48 ページ 骨材の表面積と新表面積法による構築混合物の検討とその応用に関する研究

正員 工博 大久保達郎・相馬 敬司
工博 西原 宏

定価 150 円 (〒 10 円)

正員 工博 林 泰 造

定価 100 円 (〒 10 円)

正員 太田 誠 一 郎

定価 220 円 (〒 20 円)